

看介護部会合同研修会 報告書

実施日	令和元年 6 月 28 日 (金) 15 時から 16 時 30 分
会議実施会場	相模原市あじさい会館 3 階研修室
参加人数	10 施設 24 名
議事項目	「災害から学んだ事」
講師	社会福祉法人杜の里福祉会 特別養護老人ホーム 成仁杜の里仙台 和賀 明子様

東日本大震災を体験した内容を時系列で紹介して頂きました。
入所者 130 名 ショートステイ 20 名
平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分 地震発生 14 時 49 分に大津波警報が発令された。たまたま、利用者の一人が携帯ラジオを持っていたため、職員が利用者に許可を頂き貸してもらい聞いていた。14 時 55 分特養の 1 階にいた入居者を垂直避難で 2 階のケアハウスのテラスへ避難する。15 時 10 分 2 階テラスへ避難した利用者より「さむい」との訴えがあり特養へ避難し直す。15 時 30 分津波が到着する。16 時に役職者で災害本部を立ち上げ、備蓄食料、飲料水、消耗品、ライト、電池、ラジオの確認を行う。18 時津波の水位が安定する。19 時 30 分自家発電を起動する。20 時配電盤より出火。消火器により鎮火。自家発中止。出火の原因として津波の海水によりショートした。21 時就寝。震度 4 の余震が夜間で 156 回発生。携帯電話ですが人が密集している場所にいると電池の消耗が激しい。入居者の家族が心配していると思っていた。ラジオからの情報が唯一だった。2.5 km先の海岸では 200 ~250 の遺体があると放送していた。
平成 23 年 3 月 12 日 重油の量を測り燃費計算し 1 日に 4 時間、4 日間の自家発電の稼働を決めた。救助：9 時に飛行中の消防のヘリコプターと交渉するが、緊急救助者がいないことと避難所でないので救援物資はおいていけないとのことだった。
物資：厨房委託業者と連絡がとれ、同じ系列の施設が 1.5 km先にあったため、職員が歩いて米、水、缶詰めを運んだ。1 人 10 往復程度した。
食事提供：2 階の廊下に仮設厨房を設置しユニットの炊飯器で炊飯した。
排泄：原則 1 日 4 回の支援。水不足からディスポグローブの使用とアルコール指手消毒。職員の排泄はトイレで小を 10 回で 1 回水を流す。紙に正の字を書き 10 回目の人が流す。大は 1 回で流す。低体温予防を行った。
平成 23 年 3 月 13 日施設から外に行く通路を宮城県警と岐阜県警が設置してくれた。職員の交代が出来た。しかし、自宅に帰らない職員もいた。施設の方が人もいて安心とのこと。
インフラ：道路 14 日に開通 電気 19 日に通電 水道 27 日に開水 暖房 27 日間使用不能
未入浴 38 日間 1 ヶ月後、仮設のトイレ設置したが夜間怖くて行けなかった。

